

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2008に準拠して作成

消化管運動改善剤

ペリゼリン®錠 5mg

ペリゼリン®錠 10mg

ペリゼリン®ドライシロップ 1%

Perizelin

剤形	錠 5mg, 錠 10mg : フィルムコーティング錠 ドライシロップ 1% : ドライシロップ剤			
製剤の規制区分	なし			
規格・含量	錠 5mg : 1錠中ドンペリドン 5mg 含有 錠 10mg : 1錠中ドンペリドン 10mg 含有 ドライシロップ 1% : 1g 中ドンペリドン 10mg 含有			
一般名	和名 : ドンペリドン 洋名 : Domperidone			
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日		錠 5mg	錠 10mg	ドライシロップ 1%
	承認年月日	2010年 7月 15日	1996年 3月 15日	2008年 2月 19日
	薬価収載	2010年 11月 19日	1996年 7月 5日	2008年 6月 20日
	販売年月日	2010年 11月 19日	1996年 10月 1日	2008年 6月 20日
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元 : 日医工株式会社			
医薬情報担当者の連絡先				
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター (月曜～金曜 9:00～17:00) TEL : 0120-517-215 FAX : 076-442-8948 医療関係者向けホームページ http://www.nichiiko.co.jp/			

本IFは2010年8月改訂(第10版:錠5mg,錠10mg)及び2008年6月作成(第1版:ドライシロップ1%)の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ
<http://www.info.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。

医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過した現在、薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会において新たなIF記載要領が策定された。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「IF記載要領2008」により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ①「医薬品インタビューフォーム記載要領2008」（以下、「IF記載要領2008」と略す）は、平成21年4月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「医薬品インタビューフォーム記載要領2008」においては、従来の主にMRによる紙媒体での提供に替え、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関でのIT環境によっては必要に応じてMRに印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2008年9月)

目 次

[I] 概要に関する項目	1
[II] 名称に関する項目	2
[III] 有効成分に関する項目	3
[IV] 製剤に関する項目	4
[V] 治療に関する項目	7
[VI] 薬効薬理に関する項目	9
[VII] 薬物動態に関する項目	10
[VIII] 安全性(使用上の注意等)に関する項目	15
[IX] 非臨床試験に関する項目	19
[X] 管理的事項に関する項目	20
[X I] 文 献	22
[X II] 参考資料	22
[X III] 備 考	22
[付録] 付 表	23

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

ドンペリドンはベンズイミダゾロン系の強い鎮吐作用を有する消化管運動改善剤で、胃運動促進作用、胃・十二指腸協調運動促進作用、胃排出能の正常化作用、下部食道括約部圧の上昇作用を有しており、消化器系疾患及び薬剤投与時に伴う不定愁訴に有用である。

ドンペリドン製剤であるペリゼリン錠 10mg 及びペリゼリンドライシロップ (1%) は、日医工株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、1996年3月15日に承認を取得、1996年7月5日に薬価収載され1996年10月1日に上市した。(薬発第698号(昭和55年5月30日)に基づき承認申請)

再評価(品質再評価)の結果、1999年10月7日、両製剤は薬事法第14条第2項各号(承認拒否事由)のいずれにも該当しないとの再評価結果を得た。

その後、医療過誤防止のため、2008年2月19日に製品名を「ペリゼリンドライシロップ」から「ペリゼリンドライシロップ1%」に変更の承認を得て、2008年6月20日から販売の運びとなった。

又、規格揃えとして「ペリゼリン錠5mg」の開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、2010年7月15日に承認を取得、2010年11月19日から販売する運びとなった。(薬食発第0331015号(平成17年3月31日)に基づき承認申請)

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 製剤規格として錠剤 5mg, 錠剤 10mg 及びドライシロップ 1% の 3 規格がある。
- (2) 錠剤 5mg 及び錠剤 10mg の各直径が 6.1mm, 7.1mm とつまみ易く服用しやすい製剤である。
- (3) 重大な副作用(頻度不明)として、ショック、アナフィラキシー様症状、錐体外路症状、意識障害、痙攣、肝機能障害、黄疸が報告されている。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

ペリゼリン®錠 5mg

ペリゼリン®錠 10mg

ペリゼリン®ドライシロップ 1%

(2) 洋名

Perizelin

(3) 名称の由来

特になし

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

ドンペリドン (JAN)

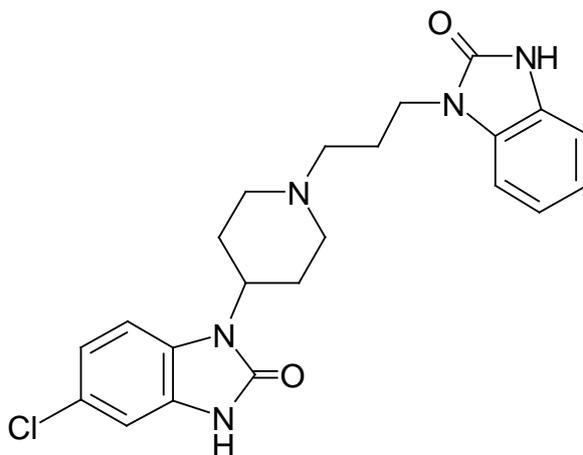
(2) 洋名 (命名法)

Domperidone (JAN)

(3) ステム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : $C_{22}H_{24}ClN_5O_2$

分子量 : 425.91

5. 化学名 (命名法)

5-Chloro-1-{1-[3-(2-oxo-2,3-dihydro-1*H*-benzimidazol-1-yl)propyl]piperidin-4-yl}-
1,3-dihydro-2*H*-benzimidazol-2-one (IUPAC)

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

特になし

7. CAS 登録番号

57808-66-9

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色～微黄色の結晶性の粉末又は粉末である。

(2) 溶解性

酢酸（100）に溶けやすく，メタノール又はエタノール（99.5）に溶けにくく，2-プロパノールに極めて溶けにくく，水にほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点），沸点，凝固点

融点：約 243℃（分解）

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

吸光度：本品の規定された溶液(1→50000)は，230nm 付近及び 287nm 付近に吸収の極大を示し， $E_{1\text{cm}}^{1\%}$ (271nm)は約 278 である。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

(1) 紫外可視吸光度測定法

(2) 赤外吸収スペクトル測定法

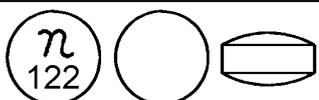
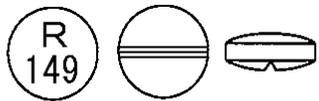
4. 有効成分の定量法

電位差滴定法

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別及び性状

	剤形	色調	形状
ペリゼリン錠 5mg	フィルムコーティング錠	白色	 重量：80mg 直径：6.1mm 厚さ：3.2mm
ペリゼリン錠 10mg	フィルムコーティング錠	白色～微黄色	 重量：116mg 直径：7.1mm 厚さ：3.1mm
ペリゼリン ドライシロップ 1%	ドライシロップ剤	白色	—

(2) 製剤の物性

	製剤均一性試験 (質量偏差試験)	
ペリゼリン錠 10mg	判定値：15.0%以下	試験結果：1.9～2.6%

	粒度分布	
ペリゼリン ドライシロップ 1%	18号ふるい残留量	全量通過
	30号ふるい残留量	5%以下
	200号ふるい通過量	10%以下

(3) 識別コード

	本体	PTP
ペリゼリン錠 5mg	n 122	n 122
ペリゼリン錠 10mg	R 149	R 149
ペリゼリン ドライシロップ 1%	なし	

(4) pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 無菌の旨及び安定な pH 域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

(1) 有効成分 (活性成分) の含量

ペリゼリン錠 5mg : 1錠中ドンペリドン 5mg 含有

ペリゼリン錠 10mg : 1錠中ドンペリドン 10mg 含有

ペリゼリンドライシロップ 1% : 1g 中ドンペリドン 10mg 含有

(2) 添加物

ペリゼリン錠 5mg

添加目的	添加物
賦形剤	乳糖, バレイショデンプン
結合剤	ポリビニルアルコール (部分けん化物)
滑沢剤	ステアリン酸マグネシウム, タルク
コーティング剤	ヒプロメロース, マクロゴール, タルク, 酸化チタン

ペリゼリン錠 10mg

添加目的	添加物
賦形剤	乳糖
崩壊剤	トウモロコシデンプン
結合剤	ポリビニルアルコール(部分けん化物)
滑沢剤	ステアリン酸マグネシウム, タルク
コーティング剤	ヒプロメロース, マクロゴール, 無水ケイ酸, 酸化チタン

ペリゼリンドライシロップ 1%

添加目的	添加物
賦形剤	白糖
結合剤	ヒドロキシプロピルセルロース
消泡剤	シリコーン樹脂
分散剤	ソルビタン脂肪酸エステル, ステアリン酸グリセリン, ショ糖脂肪酸エステル

(3) その他

なし

3. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性¹⁾

本品につき加速試験 (40℃, 相対湿度 75%, 6 ヶ月) を行った結果, ペリゼリン錠 5mg 及びペリゼリン錠 10mg は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

加速試験

	保存条件	保存形態	結果
加速試験	40℃・75%RH・6 ヶ月	最終包装形態<錠 5mg >	変化なし
加速試験	40℃・75%RH・6 ヶ月	最終包装形態<錠 10mg >	変化なし

長期保存試験 (25℃, 相対湿度 60%) の結果により, ペリゼリンドライシロップ 1% は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが確認された。

長期保存試験

	保存条件	保存状況	結果
長期保存試験	25℃・60%RH	最終包装形態<ドライシロップ 1% >	変化なし

5. 調製法及び溶解後の安全性

該当しない

6. 他剤との配合変化 (物理化学的变化)

該当しない

7. 溶出性²⁾

ペリゼリン錠 5mg, ペリゼリン錠 10mg 及びペリゼリンドライシロップ 1%は, 日本薬局方外医薬品規格第 3 部に定められたドンペリドン錠 (5mg, 10mg) 及びドンペリドンシロップの溶出規格に適合していることが確認されている。

(試験液に pH6.0 のリン酸一水素ナトリウム・クエン酸緩衝液 900mL を用い, 溶出試験法第 2 法により, 毎分 50 回転で試験を行う)

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
5mg	30 分	75%以上
10mg	45 分	75%以上
10mg/g	90 分	70%以上

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

- (1) 第 3 級アミンの確認
- (2) 紫外可視吸光度測定法
- (3) 薄層クロマトグラフィー

10. 製剤中の有効成分の定量法

紫外可視吸光度測定法

11. 力価

該当資料なし

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 治療上注意が必要な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

●ペリゼリン錠 5mg, ペリゼリン錠 10mg

下記疾患および薬剤投与時の消化器症状（悪心，嘔吐，食欲不振，腹部膨満，上腹部不快感，腹痛，胸やけ，噯気）

成人：○慢性胃炎，胃下垂症，胃切除後症候群

○抗悪性腫瘍剤またはレボドパ製剤投与時

小児：○周期性嘔吐症，上気道感染症

○抗悪性腫瘍剤投与時

●ペリゼリンドライシロップ 1%

下記疾患および薬剤投与時の消化器症状（悪心，嘔吐，食欲不振，腹部膨満，腹痛）

小児：○周期性嘔吐症，乳幼児下痢症，上気道感染症

○抗悪性腫瘍剤投与時

2. 用法及び用量

●ペリゼリン錠 5mg, ペリゼリン錠 10mg

成人：通常，ドンペリドンとして1回 10mg を1日3回食前に経口投与する。

ただし，レボドパ製剤投与時にはドンペリドンとして1回 5～10mg を1日3回食前に経口投与する。

なお，年齢，症状により適宜増減する。

小児：通常，ドンペリドンとして1日 1.0～2.0mg/kg を1日3回食前に分けて経口投与する。

なお，年齢，体重，症状により適宜増減する。

ただし，1日投与量はドンペリドンとして 30mg を超えないこと。また，6歳以上の場合はドンペリドンとして1日最高用量は 1.0mg/kg を限度とすること。

●ペリゼリンドライシロップ 1%

小児：通常，ドンペリドンとして1日 1.0～2.0mg/kg を用時水で懸濁し，1日3回食前に分けて経口投与する。

なお，年齢，体重，症状により適宜増減する。

ただし，1日投与量はドンペリドンとして 30mg を超えないこと。また，6歳以上の場合はドンペリドンとして1日最高用量は 1.0mg/kg を限度とすること。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験：忍容性試験

該当資料なし

(4) 探索的試験：用量反応探索試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化平行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連のある化合物又は化合物群

メトクロプラミド

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序³⁾

ドパミン D₂ 受容体遮断薬である。胃運動の生理的調節において、胃壁内の神経叢では D₂ 受容体は抑制性の役割を演じているので、D₂ 受容体遮断によって胃運動特異的な促進作用が期待され、消化管運動機能調整薬として用いられる。

また、中枢の化学受容器引き金帯での D₂ 受容体は嘔吐に関与しているため、この部位での D₂ 受容体抑制による制吐作用も現す。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

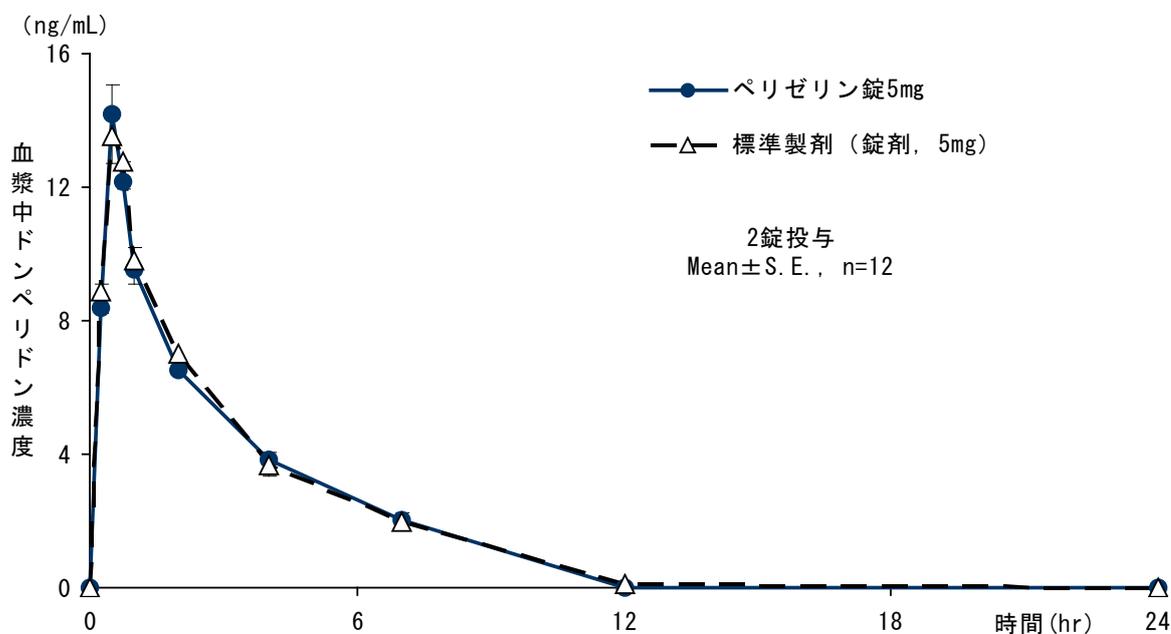
(「臨床試験で確認された血中濃度」の項参照)

(3) 臨床試験で確認された血中濃度⁴⁾

<ペリゼリン錠 5mg>

生物学的同等性試験に関する試験基準 (薬審第 718 号 昭和 55 年 5 月 30 日)

ペリゼリン錠 5mg 及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 2 錠 (ドンペリドンとして 10mg) 健康成人男子に空腹時単回経口投与して血漿中ドンペリドン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC, Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。



<薬物速度論的パラメータ>

	判定パラメータ		参考パラメータ
	AUC _{0→24} (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)
ペリゼリン錠 5mg	42.21±1.81	15.10±0.58	0.56±0.03
標準製剤 (錠剤, 5mg)	43.43±2.65	14.79±0.66	0.58±0.04

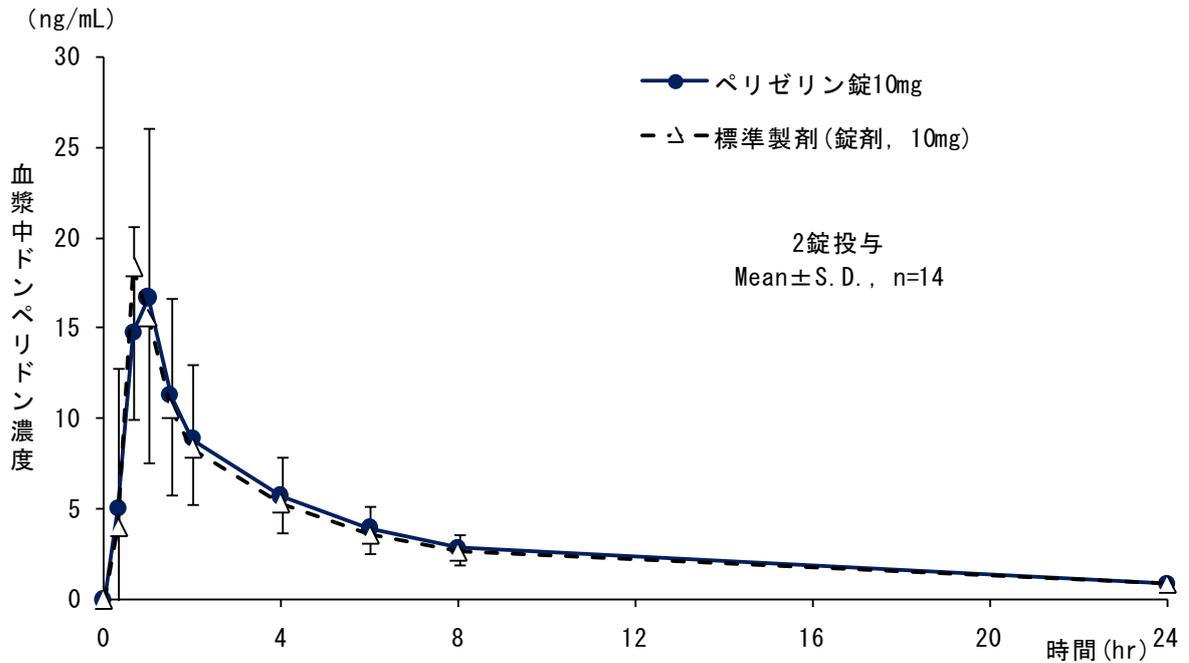
(2 錠投与, Mean±S.E., n=12)

血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

<ペリゼリン錠 10mg>

生物学的同等性試験に関する試験基準（薬審第 718 号 昭和 55 年 5 月 30 日）

ペリゼリン錠 10mg 及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 2 錠（ドンペリドンとして 20mg）健康成人男子に空腹時単回経口投与して血漿中ドンペリドン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC, Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された



<薬物速度論的パラメータ>

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC _{0→24} (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t1/2 (hr)
ペリゼリン錠 10mg	82.49±25.69	19.49±8.70	0.82±0.30	8.37±1.59
標準製剤 (錠剤, 10mg)	78.72±23.46	20.11±8.04	0.76±0.15	9.00±2.59

(2 錠投与, Mean±S.D., n=14)

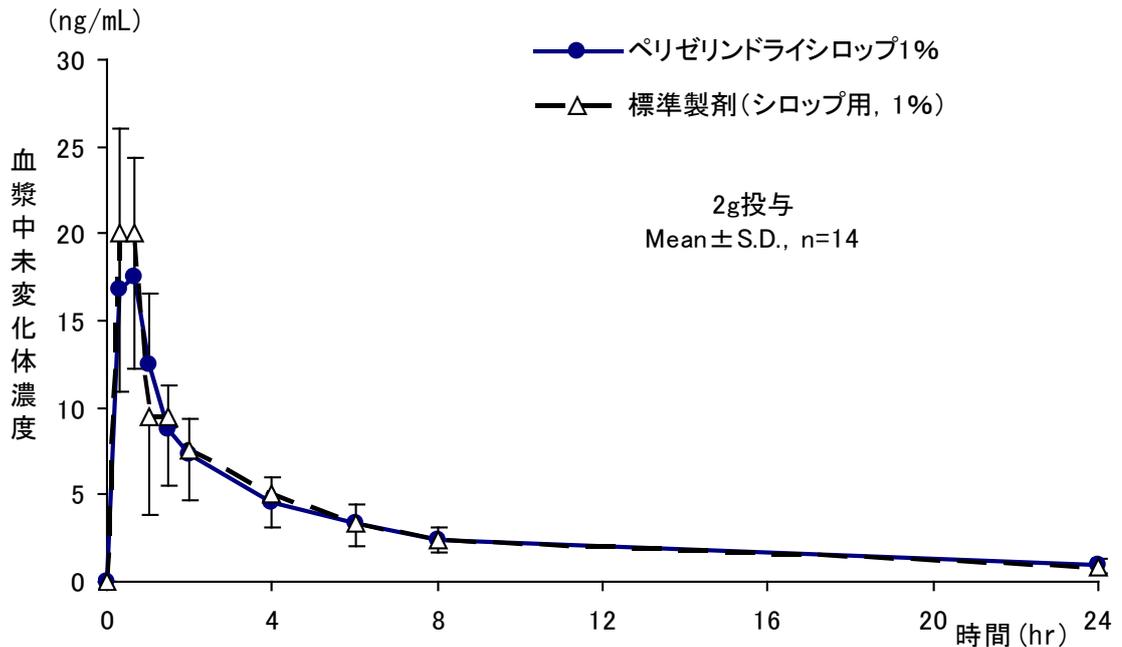
血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

<ペリゼリンドライシロップ 1%>

生物学的同等性試験に関する試験基準（薬審第 718 号 昭和 55 年 5 月 30 日）

ペリゼリンドライシロップ 1%及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 2g（ドンペリドンとして 20mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC, Cmax）について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

（注意：本剤は小児用製剤である。）



<薬物速度論的パラメータ>

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC _{0→24} (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t1/2 (hr)
ペリゼリンドライシロップ 1%	74.76±18.75	21.06±6.63	0.55±0.21	10.03±1.93
標準製剤 (シロップ用, 1%)	77.41±25.03	22.41±7.46	0.52±0.17	9.15±1.59

(2g 投与, Mean±S.D., n=14)

血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

(「Ⅷ. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目 7. 相互作用」の項を参照のこと)

(6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) コンパートメントモデル

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率³⁾

約 98%

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

(VIII-10. 「妊婦，産婦，授乳婦等への投与」の項参照)

(3) 乳汁への移行性

(VIII-10. 「妊婦，産婦，授乳婦等への投与」の項参照)

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位

(「排泄率」の項を参照のこと)

(2) 排泄率³⁾

健常成人に 40mg を経口投与したとき，4 日以内に約 95%が排泄され，尿中とふん中への排泄の割合は約 3 : 7 である。

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. 透析等による除去率

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

2. 禁忌内容とその理由

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- (1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人（「妊婦，産婦，授乳婦等への投与」の項参照）
- (3) 消化管出血，機械的イレウス，消化管穿孔の患者 [症状が悪化するおそれがある。]
- (4) プロラクチン分泌性の下垂体腫瘍（プロラクチノーマ）の患者 [抗ドパミン作用によりプロラクチン分泌を促す。]

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

【慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）】

- (1) 小児（「小児等への投与」の項参照）
- (2) 肝障害又は腎障害のある患者 [副作用が強くあらわれるおそれがある。]

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

- (1) 本剤の投与により，間脳の**内分泌機能調節異常，錐体外路症状**等の副作用があらわれることがあるので，本剤の投与に際しては，有効性と安全性を十分考慮のうえ使用すること。
- (2) 眠気，めまい・ふらつきがあらわれることがあるので，本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械操作に注意させること。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当記載事項なし

(2) 併用注意とその理由

併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
フェノチアジン系精神神経用剤 プロクロルペラジン クロルプロマジン チエチルペラジン 等 ブチロフェノン系製剤 ハロペリドール 等 ラウオルフィアルカロイド製剤 レセルピン 等	内分泌機能調節異常又は 錐体外路症状が発現しや すくなる。	フェノチアジン系精神神経用 剤, ブチロフェノン系製剤は中 枢性の抗ドパミン作用を有 し, ラウオルフィアルカロイ ド製剤は中枢でカテコールア ミンを枯渇させる。一方, 本剤 は血液-脳関門を通過しにく いが, 強い抗ドパミン作用を有 する。
ジギタリス製剤 ジゴキシン 等	ジギタリス製剤飽和時の 指標となる悪心, 嘔吐, 食 欲不振症状を不顕性化す ることがある。 ジギタリス製剤の血中濃 度のモニターを行う。	本剤は制吐作用を有する。
抗コリン剤 ブチルスコポラミン臭化物 チキジウム臭化物 チメピジウム臭化物水和物 等	本剤の胃排出作用が減弱 することがある。 症状により一方を減量, 中 止する。又は必要に応じて 間隔をあけて投与する。	抗コリン剤の消化管運動抑制 作用が本剤の消化管運動亢進 作用と拮抗する。
制酸剤 H ₂ 受容体拮抗剤 シメチジン ラニチジン 等 プロトンポンプ阻害剤 オメプラゾール 等	本剤の効果が減弱するお それがあるので, 両剤の投 与時間を考慮する。	胃内 pH の上昇により, 本剤の 消化管吸収が阻害される。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状(頻度不明)

- 1) **ショック, アナフィラキシー様症状** : ショック, アナフィラキシー様症状(発疹, 発赤, 呼吸困難, 顔面浮腫, 口唇浮腫等)を起こすことがあるので, 観察を十分に行い, このような症状があらわれた場合には投与を中止し, 適切な処置を行うこと。
- 2) **錐体外路症状** : 後屈頸, 眼球側方発作, 上肢の伸展, 振戦, 筋硬直等の錐体外路症状があらわれることがあるので, このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。なお, これらの症状が強い場合には抗パーキンソン剤を投与するなど適切な処置を行うこと。
- 3) **意識障害, 痙攣** : 意識障害, 痙攣があらわれることがあるので, 観察を十分に行い, 異常が認められた場合には投与を中止し, 適切な処置を行うこと。
- 4) **肝機能障害, 黄疸** : AST(GOT), ALT(GPT), γ -GTP の上昇等を伴う肝機能障害, 黄疸があらわれることがあるので, 観察を十分に行い, 異常が認められた場合には投与を中止し, 適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

下記のような副作用があらわれることがあるので, 観察を十分に行い, 異常が認められた場合には減量・休薬等の適切な処置を行うこと。

	頻 度 不 明
肝 臓	肝機能異常 (AST(GOT), ALT (GPT) , γ -GTP, ビリルビン, Al-P, LDH 上昇等)
内 分 泌	女性化乳房 ^{注)} , プロラクチン上昇, 乳汁分泌, 乳房膨満感, 月経異常
消 化 器	下痢, 便秘, 腹痛, 腹部圧迫感, 口渇, 胸やけ, 悪心, 嘔吐, 腹部膨満感, 腹部不快感, 腹鳴, 腸痙攣,
循 環 器	心悸亢進
皮 膚	蕁麻疹, 発疹, そう痒
そ の 他	口内のあれ, 発汗, 眠気, 動揺感, めまい・ふらつき

注 : 投与を中止すること。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患, 合併症, 重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

- 1) **禁忌** : 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。
- 2) **重大な副作用** : ショック, アナフィラキシー様症状(発疹, 発赤, 呼吸困難, 顔面浮腫, 口唇浮腫等)を起こすことがあるので, 観察を十分に行い, このような症状があらわれた場合には投与を中止し, 適切な処置を行うこと。
- 3) **その他の副作用** : 蕁麻疹, 発疹, そう痒の皮膚症状があらわれることがあるので, 観察を十分に行い, 異常が認められた場合には減量・休薬等の適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、減量するなど注意すること。

10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。〔動物実験（ラット）で骨格，内臓異常等の催奇形作用が報告されている。〕

(2) 授乳中の婦人には大量投与を避けること。〔動物実験（ラット）で乳汁中へ移行することが報告されている。〕

11. 小児等への投与

小児において錐体外路症状，意識障害，痙攣が発現することがあるため，特に1歳以下の乳児には用量に注意し，3歳以下の乳幼児には7日以上連用を避けること。また，脱水状態，発熱時等では特に投与後の患者の状態に注意すること。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

錐体外路症状，めまい，見当識障害が起こるおそれがある（特に小児では起きやすい）。過量服用時には活性炭投与等適切な処置を行い，一般的な支持・対症療法を実施する。錐体外路症状に対しては抗パーキンソン剤を投与するなど適切な処置を行う。

14. 適用上の注意

<錠剤>

薬剤交付時：PTP包装の薬剤は，PTPシートから取り出して服用するよう指導すること。（PTPシートの誤飲により，硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し，更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。）

15. その他の注意

該当記載事項なし

16. その他

該当記載事項なし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製剤	ペリゼリン錠 5mg	なし
	ペリゼリン錠 10mg	なし
	ペリゼリンドライシロップ 1%	なし
有効成分	ドンペリドン	劇薬 ^{注)}

注) 1個中 10mg 以下又は 1%以下を含有する内用剤及び 1個中 60mg 以下を含有する坐剤は除かれる。

2. 有効期間又は使用期限

外箱等に表示の使用期限内に使用すること。(3年：安定性試験結果に基づく)

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱いについて

特になし

(2) 薬剤交付時の注意(患者等に留意すべき必須事項等)

(「Ⅷ. 安全性(使用上の注意等)に関する項目」の項を参照のこと)

5. 承認条件等

なし

6. 包装

	PTP 包装	バラ
ペリゼリン錠 5mg	100 錠 (10 錠× 10)	—
ペリゼリン錠 10mg	100 錠 (10 錠× 10) 1000 錠 (10 錠× 100)	1000 錠
ペリゼリンドライシロップ 1%	—	600g

7. 容器の材質

ペリゼリン錠 5mg, ペリゼリン錠 10mg

PTP：ポリ塩化ビニル, アルミニウム箔

ペリゼリン錠 10mg

バラ：ポリエチレン袋

ペリゼリンドライシロップ 1%

バラ：ボトル; ポリエチレン, キャップ; ポリエチレン

8. 同一成分・同効薬

同一成分：ナウゼリン錠 5, ナウゼリン錠 10,

ナウゼリンドライシロップ 1% (協和醗酵キリン)

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

	承認年月日	承認番号
ペリゼリン錠 5mg	2010年7月15日	22200AMX00646000
ペリゼリン錠 10mg	1996年3月15日	(8AM)385
ペリゼリンドライシロップ 1%	2008年2月19日	22000AMX00066000

<旧販売名>ペリゼリンドライシロップ(1%)

承認年月日：1996年3月15日

承認番号：(8AM)384

11. 薬価基準収載年月日

ペリゼリン錠 5mg	2010年11月19日
ペリゼリン錠 10mg	1996年7月5日
ペリゼリンドライシロップ 1%	2008年6月20日

<旧販売名>ペリゼリンドライシロップ(1%)

薬価基準収載年月日：1996年7月5日

経過措置：2009年3月31日迄

12. 効能・効果追加，用法・用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容

<再評価>

再評価結果：1996年10月7日

内容：品質再評価

14. 再審査期間

該当しない

15. 投与期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬期間制限の対象となる医薬品ではない。

16. 各種コード

	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
ペリゼリン錠 5mg	2399005F1132	622036201	120362201
ペリゼリン錠 10mg	2399005F2104	610407419	113716318
ペリゼリンドライシロップ 1%	2399005R1015 (統一収載医薬品コード)	620008337	113717004

17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

X I. 文献

1. 引用文献

- 1) 日医工株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) 日医工株式会社 社内資料 (溶出試験)
- 3) 第十五改正日本薬局方 第一追補解説書 廣川書店(2008)
- 4) 日医工株式会社 社内資料 (生物学的同等性試験)

2. その他の参考文献

なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

なし

2. 海外における臨床支援情報

なし

X III. 備考

その他の関連資料

なし

付表 1-1

薬食発第 0331015 号（平成 17 年 3 月 31 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 製造方法並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定及び物理化学的性質等	○	×	×
	2 製造方法	○	△	○
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 副次的薬理・安全性薬理	○	×	×
	3 その他の薬理	△	×	×
ホ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
	6 その他の薬物動態	△	×	×
ヘ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 遺伝毒性	○	×	×
	4 がん原性	△	×	×
	5 生殖発生毒性	○	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1-2

医薬発第 481 号（平成 11 年 4 月 8 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・科学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 生殖発生毒性	○	×	×
	4 変異原性	○	×	×
	5 がん原性	△	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1-3

薬発第 698 号（昭和 55 年 5 月 30 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・化学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	×
	2 苛酷試験	○	×	×
	3 加速試験	×	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 急性毒性	○	×	×
	2 亜急性毒性	○	×	×
	3 慢性毒性	○	×	×
	4 生殖に及ぼす影響	○	×	×
	5 依存性	△	×	×
	6 抗原性	△	×	×
	7 変異原性	△	×	×
	8 がん原性	△	×	×
	9 局所刺激	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の試験成績に関する資料	臨床試験の試験成績	○	×	○

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される